

砂遊びで交流深める

八学大短大部生実習

ハ 戸

八戸市の八戸学院大学短期大学部（杉山幸子学長）はこのほど、同市の白浜海岸で砂浜彫刻実習を行った。幼児保育学科の1、2年生約110人が参加。仲間と協力しながら、子どもたちが好きな「砂遊び」で大きな作品を作り上げた。

子どもたちの表現力を養う砂遊びを、地域の自然を生かして実際に体験するとともに、学生の交流を深めようと2006年度から実施している。

本年度は「子ども喜ぶ〇〇」をテーマに、10班に分かれて自由に制作。スコップやバケツを使って海水で砂を固めた



大きなクラゲの作品を前に写真に納まる学生ら

り、貝殻や木の枝を使って作品を装飾したりし、さまざまなキャラクターや動物などを作った。

水族館をテーマにさまざまな海洋生物を作った2年・工藤みのりさん(19)は「好きなクラゲを大きく作り、装飾にも力を入れた。話したことのない1年生とも交流できて楽しかった」と笑顔で話した。
(中村篤希)